

教育目標		たくましく しなやかに							
重点目標		○非認知能力の育成 ○豊かな心の育成 ○生きて働く学力の育成							
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価	
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・学校全体の学力の底上げを図る。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 ・子どもの自己肯定感や学力の向上につながる非認知能力を育成する。	・かみつっ子タイムなどを通じて、個に応じた指導を取り入れていく。 ・家庭学習ががんばり週間を通して、保護者と協力しながら学習習慣をつけていく。 ・朝の学習で基礎プリントを実施し、基礎学力を積み上げていく。 ・「わかった」「できた」を積み上げる授業改善に取り組む。 ・励まし、勇気づける関わりを徹底する。	・保護者アンケートで「子どもは、家庭での学習習慣がしっかり身につけている。」と答える保護者が80%を超えている。 ・児童アンケートの「苦手なことや難しい問題でも自分なりに粘り強くチャレンジしようとしている」の項目で、肯定的な回答が80%以上になる。	B	・保護者アンケートの「子どもは、家庭での学習習慣がしっかり身につけている」という項目で肯定的な回答(よくあてはまる、ややあてはまる)が79.7%であった。一方で、児童アンケートの「毎日宿題や自主勉強に取り組んでいる」という項目では肯定的な回答が82.6%となった。 ・児童アンケートの「ねばり強さ」の項目では肯定的な回答が74%であった。保護者アンケートでは80.4%となった。	・どちらも約8割を達成しているが、個に応じた指導を継続し、家庭ががんばり週間などを通じて、家庭と連携した取り組みを行い、学習の習慣化を目指す。 ・「ねばり強さ」の項目では、児童の意識より、そばで見ている保護者の視点からの評価が高かった。自分で頑張れているという自己肯定感も同時に高めていけるように引き続き、励まし、勇気づける関わりをしていく。	・さらに家庭との連携を深め、より多くの児童の家庭学習の習慣化をお願いしたい。 ・先生方は「非認知能力を高める5つのかわり」を意識して指導してくれている。子どもたちの非認知能力や自己肯定感がさらに高まるよう、これからも家庭・地域と協働し、子どもを励まし、勇気づけるかわりをともに大切にしていきたい。 ・子どもたちの「ねばり強さ」を高める具体的な取り組みを検討し、それにしっかりと取り組んでいくことが成果につながるのではないかと。
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成	・学校や家庭学習で積極的にタブレット端末を使用する。 ・情報モラルを育成する。	・各教科の学習活動において、調べ学習やプレゼンテーションを取り入れる。 ・デジタル教材を使用することで、個に応じた課題に家庭学習で取り組む。 ・学団ごとに情報モラルの育成目標を設定し、各学団で、「ひようごGIGAワークブック」等を活用して目標達成に向けて取り組む。	・タブレット端末を用いて調べ学習やプレゼンテーションをすることができる。 ・タブレット端末を活用して、個に応じた学習に取り組むことができる。 ・児童・保護者アンケート「タブレット端末を使う上で、学校や家でのルールを守って、安全に使っている。」で、できるという回答が80%を超える。	B	・総合的な学習の時間を中心に調べ学習やプレゼンテーションをすることができた。 ・AI搭載のデジタルドリル『ドリルパーク』『キュビナ』を使用し、個に応じた学習に十分に組み合わせたと言える。 ・児童・保護者アンケート「タブレット端末を使う上で、学校やお家でのルールを守って安全に使うことができる。」で、肯定的な回答が約84%で目標を達成した。	・スマートフォンでのトラブルが昨今増えてきているため、生活指導と連携し、スマートフォンやSNSの使用の仕方など情報モラルの教育に注力していく。 また、トラブルが起こった際は、個別対応にとどめず、必要に応じて、学年や学校全体に共有し、指導していく。	・児童がスマホやタブレットを適切に使用することができるよう、また、事件に巻き込まれることがないよう、引き続き情報モラルの指導を計画的に行っていただくとありがたい。 ・タブレットが重くなっており、特に低学年は持ち帰りが大変そうである。家庭での活用と持ち帰りの必要性等について、検討してほしい。
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・問題行動を起こさせないために、きめ細やかな指導を行う。 ・児童の様々な問題を早期発見するように努め、迅速に対応する。 ・行き渋りがある児童が不登校にならないように、また新たな不登校児童を出さないため、できるだけ早く動きかける。	・普段から児童の様子や児童間の関係をしっかりと見るようにしたり、きまりの確認や物事の善悪について指導したりしていく。 ・いじめのアンケートを実施し、必要に応じていじめ対策委員会を開き、全てのいじめ案件について対策していく。 ・行き渋りがある児童には1時間目までに連絡し、初期対応を行う。必要に応じて家庭訪問を行う。	・児童アンケートの「先生は自分の意見をよく聞いてくれ、悩みや不安についても相談できる」と回答する割合が80%以上になる。 ・把握したいいじめ事案は、全て解消への取り組みを徹底して行う。 ・不登校傾向にある児童には、必ず児童の状況に合わせて対策を実施する。	A	・問題行動があった際は、教員同士でしっかり連携を取り、児童には丁寧に聴き取って指導をした。 ・児童アンケートの「先生は自分の意見をよく聞いてくれ、悩みや不安についても相談できる」と回答する割合が81.2%だった。 ・いじめのアンケート等で把握した事案は早急に事実確認し、全て解消している。 ・行き渋りがある児童については、連絡をこまめに取ったり、迎えに行ったりして児童の状況に合わせて対応した。 ・不登校状態だった児童が登校できるようになったが、休みがちな児童が多く、行き渋りがある児童もいる。	・「先生は自分の意見をよく聞いてくれ、悩みや不安についても相談できる」と回答する割合が80%を超えているが、児童の様子を見て少しでもいつもと違うのであれば、すぐに話をきくようにする。 ・行き渋りがある児童に対して、その児童に応じて迎えに行く回数や時間帯を考え、担任や生活指導担当で連携して動く。 ・体調不良を理由に欠席が多い児童がおり、どのように登校を促していくか児童に合った対応策を考えていく。	・先生方は、とても丁寧に児童とかかわってくださっていると感じる。これからも一人ひとりの子どもに寄り添ったかわりをつけていただきたい。 ・行き渋りや不登校傾向がある児童に学校全体で丁寧ににかかわっている。不登校児童の増加が叫ばれる中で、全く登校ができていない児童が0人という現在の状況にも表れている。これからも、子どもたちが楽しい、行きたいと思える学校づくりに尽力していただきたい。 ・教職員アンケートの結果から、先生方は子どもたちのあいさつが課題と捉えておられる。あいさつは大切だと思うので、効果的な取り組みを期待したい。
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②発達段階に応じた健全な食育の推進	・運動に親しみ、自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。 ①児童生徒の体力向上の促進 ②発達段階に応じた健全な食育の推進	・運動委員会を中心に、業間体育の企画を実施する。 ・年間カリキュラムに沿って、多様な動きを授業の中に取り入れる。	・児童アンケートにおいて、「運動やスポーツをすることが好きである。」の質問に対して、肯定的な回答が80%を超える。	A	・児童アンケートでは、「運動やスポーツをすることが好き」の肯定的な回答が81.9%で目標値の80%を超えることができた。 ・運動委員会を中心に、「神津っ子元気アップ運動」と題し、児童が業間休みに運動場へ出て遊ぶきっかけを作ることができた。 ・年間カリキュラムに沿って、体ほぐし、陸上運動、器械運動、ボール運動の内容をどの学年でも行うことができた。	・業間体育の「神津っ子元気アップ運動」と「みんなでジャンプ」を継続して行い、児童が楽しく運動ができる機会を増やす。 ・体育の授業で、児童の成功体験を増やし、「もっとやりたい」と思えるような授業づくりをする。	・児童が外遊びをするきっかけづくりに工夫して取り組んでいる。さらに多くの児童が、運動が日常化し、運動が好きになるように取り組みを進めいただければと思う。 ・体育の授業で「できた」という経験をたくさんさせてあげてほしい。
教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	保護者との対話を重視する。 ・児童や保護者の困り感に応じて、SCやSSW等と連携し、適切な対応を行う。	・電話連絡や個人懇談などを通して、保護者との情報共有・信頼関係づくりを行う。 ・不安や悩みを抱える児童や保護者が相談しやすいよう、SCや相談機関等の情報を積極的に発信・紹介する。	・保護者アンケートの「学校は、保護者の思いを聞き、子どものことを相談できる」の項目で、肯定的な回答(A90%、B85%)	A	個人懇談や日常の連絡などによる情報共有を丁寧にすることができた。 ・保護者アンケートでは、95.8%の方から肯定的な回答をいただいた。 ・医療相談等を積極的に活用し、学習面等で困り感のある児童の適切な支援を保護者とともに行うことができた。	・これからも、保護者との直接対話を大切にし、信頼関係のもと、ともに子どもの成長を支えていく。 ・保護者がSCや関係機関等をうまく活用できるよう、さらに適切な情報発信に努める。	・これからも、保護者と直接対話する機会を大切にし、信頼関係を築いていってほしい。		

	<p>特別支援教育の推進</p> <p>①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実</p>	<p>・支援を必要としている子どもに対する理解を深め、特性に応じた支援を行う。</p>	<p>・毎月の部会を中心に、支援の必要な児童の情報共有を行い適切な支援に努める。</p> <p>・校内研修会の実施や特別支援に関する研修会、相談事業等を積極的に紹介するなど情報提供を行う。</p> <p>・のびのび学級の児童についてのび担、交流担、保護者との連携して支援を行う。</p>	<p>・教員アンケートの「児童の実態に応じて支援方法を工夫し適切な支援を行うことを努めた」の項目で肯定的意見が8割以上になる。</p> <p>・毎月の部会で支援の必要な児童の情報共有を行い、また校内研修会等で教員の指導力向上を図る。</p> <p>・のびのび研修会や個別の指導計画、のびのびノートでの情報共有、のびのびマーケットでの保護者公開の場を設け連携を図る。</p>	<p>A</p>	<p>・教職員アンケートでは、肯定的意見が100%であり、各教員が個に応じて支援を行うことに努めることができた。また、指導力向上に関するアンケートでも肯定的意見が100%であった。</p> <p>・毎月の部会で情報共有ができた。必要に応じてコンサルテーションや医療相談等外部へつなげることができた。</p> <p>・部会やのびのび研修会でののびのび学級児童について情報共有ができた。のびのびノートや電話連絡など保護者との連携を密にし、オープンスクールやのびのびマートなど保護者に指導場面を見てもらうことも連携を図ることができた。</p> <p>・個別支援については、引き続き学級担任、支援員等による支援を充実させるために、児童の実態把握や目標設定等を適切に行う。</p> <p>・本校の児童の実態に応じて学校全体での支援を行うために環境設定や授業での支援等について研修を深め指導力の向上に努める。</p> <p>・のびのび学級児童の増加に伴い、円滑に支援指導が行えるように、指導内容や指導方法の工夫等を検討実施していく。</p>	<p>・すべての先生が、支援方法を工夫、適切な支援に努めてくださっている。</p> <p>・引き続き、環境設定や授業での支援等について研修を深め、特別支援教育の充実に努めてほしい。</p>
	<p>教職員の資質向上</p> <p>①研修等の充実</p>	<p>・日々の授業について、こだわりをもって子どもと創り上げる授業を実践する。</p> <p>・特別支援やICTなど、幅広い分野の力量を持つ。</p>	<p>・年間2本の校内授業研究を行い、3本の授業研究を市内で発表する。また、一人1授業を実施し学校全体の授業力向上を目指す。</p> <p>・総合教育センター等を活用して、工夫した授業計画を立てる取り組みを行う。</p> <p>・幅広い研修を重ねる。</p>	<p>・年間2本の校内授業研究を行い、3本の授業研究を市内で発表する。</p> <p>・児童アンケートにおいて、学ぶことが楽しいという項目で肯定的回答が80%を超える。</p>	<p>A</p>	<p>・児童アンケートの「授業はわかりやすく楽しい」という項目において、肯定的回答が84.8%、「先生は教え方をいろいろと工夫している」という項目で96.3%という結果だった。教職員アンケートでは「子どもがわかりやすい授業づくりに取り組んでいる」という項目で100%となった。保護者アンケートでは「学習の基礎的・基本的な力がついている」という項目では91.6%という結果だった。</p> <p>・研究テーマをより明確かつ具体的に、系統立てて学校全体で取り組めるように努める。</p> <p>・研究担当を中心に、気楽にお互いの授業が見合えるようなオープンな風土作りを目指す。</p> <p>・児童が自ら進んで学ぶ意欲が持てるような授業改善に努める。</p>	<p>・児童アンケートの結果から、児童が授業や教え方について肯定的に回答していることがわかる。</p> <p>・改善策にあるように、さらに児童が自ら学ぶ意欲を持ち、学ぶ楽しさを感じることで授業改善に努めてほしい。その結果、「学校に行くのが楽しい」児童の増加につながればと願う。</p>
<p>教育環境の整備・充実</p>	<p>学校を支える組織体制の整備</p> <p>①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築</p>	<p>・学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組を活性化させる。</p>	<p>・神津っ子ちよこつと応援サポーターの取り組みを活性化し、学校の環境整備や学習支援の活動を充実していく。</p>	<p>・神津っ子ちよこつと応援サポーターの活動を、環境整備から学習支援へと広げる。</p>	<p>A</p>	<p>・神津っ子ちよこつと応援サポーターの活動が2年目となったが、サポーターの主体的な活動により、取り組みが活発になっている。</p> <p>・昨年できなかった「九九サポート」を2・3年生で実施した。また、5・6年生の家庭科(調理実習・ミン)の学習支援が始まり、子どもたちの学びの充実につながった。</p> <p>・神津っ子ちよこつと応援サポーター活動がさらに充実し継続的なものとなるよう、学校運営協議会で検討していくとともに、サポーターさんとの対話を図っていく。</p>	<p>・神津っ子ちよこつと応援サポーターの活動が充実してきており、サポーターもやりがいを持って参加できている。さらにWin-Winの活動となるように、学校と協働して取り組んでいきたい。</p> <p>・見守りなど、様々なボランティアの方の顔が見える紹介をしていただけるとありがたい。</p>
<p>安全・安心な教育環境の充実</p> <p>①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進</p>	<p>・有事の際に自分の命を守るように指導し、児童を安全かつ確実に保護者へ引き渡せるよう、防犯訓練・防災訓練の充実を図る。</p> <p>・児童の生活実態を把握し、安全な学校生活が送れるように指導する。</p> <p>・児童が安全かつ確実に登下校ができるよう、交通安全対策を推進する。</p> <p>・安全についての意識を高め、環境を整備する。</p> <p>・教職員がゆとりを持って子どもに関わる時間を生み出す。</p>	<p>・年に3回の防犯、防災訓練を実施する。</p> <p>・登下校指導を定期的実施し、生活指導と連携しながら、登下校時の学級指導を行う。</p> <p>・月1回の安全点検など、施設管理の課題を早期に見つけ対処する。</p> <p>・業務改善委員会を定期的実施し、課題を共有し、その課題の解決に取り組む。</p>	<p>・有事の際、児童を安全かつ確実に保護者へ引き渡すことができる。</p> <p>・校内での衝突や転倒等による重大事故をなくす。</p> <p>・登下校時の交通事故を防ぐために、児童が毎日安全に登下校できるよう指導する。</p> <p>・施設等の不備による事故を起こさない。</p> <p>・業務改善委員会で出た課題に学校全体で取り組んでいく。</p>	<p>B</p>	<p>・学期に1回の防犯、防災訓練と、保護者への引き渡し訓練を実施することができた。</p> <p>・保護者・児童アンケートでは、安全指導の質問事項については、96%以上の肯定的な回答を受けることができた。</p> <p>・校内での重大事故はなかったが、登下校時に通学路を守らない児童が見られる。</p> <p>・月1回の安全点検を行い、安心な教育環境を確保することができた。</p> <p>・毎月、業務改善委員会を実施し、そこで出た課題についてその改善に取り組むことができた。</p> <p>・通学路を守らない児童については、生活指導と連携しながら登下校時の指導を行う。</p> <p>・月1回の安全点検以外にも、危険箇所気づいたときには、報告、対応を行っていく。</p> <p>・来年度も業務改善委員会を中心に業務改善に取り組み、ゆとりを持って子どもにかかわることができる時間を生み出していく。</p>	<p>・1年を通して、大きな事故なく、子どもたちが元気に過ごせていることに感謝したい。引き続き、安心・安全な学校づくりに努めてほしい。</p> <p>・通学路での登下校時の安全については、地域もともに見守っていきたい。</p> <p>・神津っ子ちよこつと応援サポーターの活動を通して、少しでも先生方のゆとりを生み出せるようにしていきたい。</p> <p>・先生方がゆとりを持って教育活動ができるよう、引き続き業務改善を進めてほしい。</p>	

学校関係者評価総括

・昨年度の厳しめの自己評価から、課題意識をもって取り組まれたことが、今年度の成果につながっていると思う。

・今年度も、不登校が少ないのは高く評価できる。引き続き、児童が安心して登校できる学校づくりを期待したい。

・「学校経営方針」「非認知能力の育成」について、教職員の共通理解が進み、学校全体で意識して取り組まれている。学校教育目標の実現に向け、引き続き、非認知能力を育む取り組みを進めてほしい。

・保護者アンケートの回答率を上げるための工夫が必要である。また、記名式だと本音を回答しにくいという声もあるので、無記名にするなど、アンケートの方法についても検討してほしい。

次年度に向けた重点的な改善点

・「ねばり強さ」や「自己肯定感」等の非認知能力の育成のため、「非認知能力を高める5つのかかわり」の徹底と具体的な取り組みの推進

・主体的に学ぶ力を高めるため、「考える力を高める」「学ぶことを愉しむ」につなげる授業づくりと授業力の向上

・一人一人の子どもたちを大切にしたいかかわり、安心して過ごせる学級・学校づくり

・小中一貫教育・保幼小連携を進めるため、小中連携、小小連携及びこども園との連携に取り組む。

自己評価の基準 **A**: 目標を上回った **B**: 目標どおりに達成できた **C**: 目標をやや下回った **D**: 目標を大きく下回った